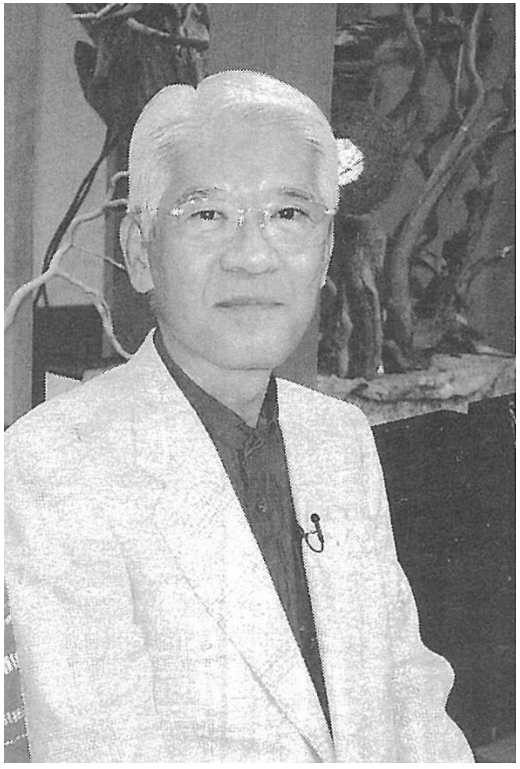

著者プロフィール

大串　章（おおぐし・あきら）

昭和12年11月６日、佐賀県に生る。同34年、大野林火に師事。
同41年、「濱」同人。平成６年、「百鳥」創刊主宰。
句集『朝の舟』（俳人協会新人賞受賞）『山童記』『百鳥』『天風』
著書『現代俳句の山河』（俳人協会評論賞受賞）『抒情の曠野』『自由に楽しむ俳句』『千里同風』『自註・大串章集』『秀句三五〇選・風』
選集『現代俳句文庫・大串章集』『花神現代俳句・大串章』
共著『俳句添削教室』『名句に学ぶ俳句の骨法』
俳人協会理事。日本文藝家協会会員。
「東京新聞」「愛媛新聞」「NHK学園・俳句春秋」「大塚薬報」各俳壇選者。

〈句集『大地』より転載〉〈2005年6月25日時点〉

『大　地』（自選十五句）

大串　章

水涼し木があれば木の影を容れ
大やんま花道を来るやうに来る
菊人形生れて菊師と見つめ合ふ
雪だるま淋しき夜は空を飛ぶ
みづうみに舟の出てゐる白障子
枯蔓の光を切つて落しけり
迎火を焚けば生者の寄りきたる
落葉籠百年そこにあるごとく
螢火は闇に佛を彫るごとし
石倉に影投げつけて初つばめ
流星は旅に見るべし旅に出づ
今年竹空をたのしみはじめけり
冷し瓜回して水の流れ去る
ふるさとを語り接木を語りけり
討入りの日は家に居ることとせり